

1 校内研修の取組

本校の教育目標は、「心身ともに健康で、自ら考え正しく判断できる力を持ち、基礎学力と実践力を身に付けた、人間性豊かな白沢の子どもを育成する」であり、具体目標は「よく勉強する子」「思いやりのある子」「ねばり強い子」である。校内研修では、「よく勉強する子」に焦点をあてて、「自ら学び考える児童の育成」を図っている。

本校では一昨年度まで研修主題「自ら学び考える児童の育成」のもと、各教科等の指導において、問題解決的な学習過程を大切にした授業を行ってきた。その授業を通して、児童は自分の考えをもち、その考えを広めたり深めたりしながら考えを推し進め、意欲的に問題解決に取り組むことができた。特に、一つの課題に対する探究活動では、友達の情報や考え方を自分の問題解決に生かすことができるようになってきた。しかし、友達の多様な情報や考えを整理・分析して自分の考えをもったり、いくつかの結論から別の結論を導き出したりするような探究活動では、混乱してしまうなどの課題も見られた。そこで、昨年度からは総合的な学習の時間と生活科を中心に、「協同的な学び」及び「整理・分析の過程の重視」を研修の重点として取り上げ、研修テーマを次のように設定した。

自ら学び考える児童の育成

— 協同的な学びを取り入れた問題解決的な学習を通して —

(1)「協同的な学び」について

本校で定める「協同的な学び」とは

集団として問題解決を目指しながら個の学びも充実できるように、お互いが学び合い、認め合い、励まし合い、高め合いながら探究・解決していく学習活動

新学習指導要領の改訂において、総合的な学習の時間の学習指導のポイントが2つ示されている。その1つが「他者と協同して取り組む学習活動にすること」である。そこで、本校では『協同的な学び』を上記のように位置づけた。また、グループの形態を取り入れることと『協同的な学び』は同じではないということも確認している。『協同的な学び』を取り入れることにより、児童と他者との結びつきが強まり、児童の気付きの質を高めたり、考えを広げたり深めたりすることができるようにしていきたい。

(2)「整理・分析の過程の重視」について

総合的な学習の時間の学習指導のポイントのあと1つが「学習過程を探究的にすること」である。探究的な学習とするためには、**①課題の設定** **②情報の収集** **③整理・分析** **④まとめ・表現** の学習過程のようになることが重要である。児童の学習活動は、「情報の収集」と「整理・分析」を行き来しながら行われるため、ひとまとまりとして捉えることもできる。しかし、「情報の収集」と「整理・分析」の過程をあえて区切ることにより、深まりのある学習にすることを目指した。

《生活科・総合的な学習の時間の教科の特性にあった学習過程》

指導要領による探究的な学習過程			
①課題の設定	②情報の収集	③整理・分析	④まとめ・表現
白沢小の学習過程			
であう・ふれあう	つかむ	活動する・調べる	つなげる・深める まとめる 生かす・広める

2 研修内容

(1)平成23年度の実践について

①「総合的な学習の時間」全体計画の改善

白沢町は旧白沢村の学区が維持されている。町内に小中学校が1校ずつであり、白沢小学校を卒業した児童がそのまま白沢中学校に入学している。そのため、小学校の各学年間だけでなく、小中の学校間の連携を意識し、全体計画を見直した。小中9年間のスパンで捉えると、学習対象や学習事項に重複やつながりがあったため、系統立てた内容になるよう精査することができた。

②単元指導計画の改善

探究的な学習活動にするために、これまでの単元指導計画を見直したり、新たな単元を開発したりした。その際に、『郷土』を総合的な学習の時間の基盤に据え、地域の人や専門家など校外の人と交流する機会を設けて「協同的な学び」が深まるようにした。探究の過程がスパイラルに何度も繰り返される中で、児童の学びが高まっていくように、スパイラルごとに視点を設けるなど支援の工夫を行った。

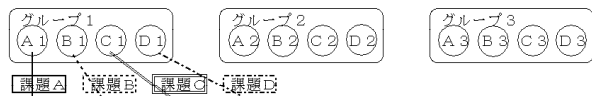
③授業実践での工夫

「整理・分析」の過程において、ジグソー的学習を取り入れた。誰もが発表者となることで、一人ひとりの役割が明確になり、グループ全員の働きがあって初めて課題を解決することができるため、全員の表現力・思考力を高める有効な学習方法である。また、「協同的な学び」を実現することもできる。

【ジグソー学習を導入した活動例】

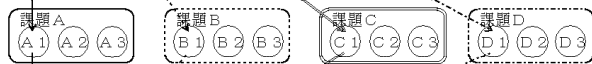
①ジグソーグループ

ジグソーグループを形成し、課題を分担する。



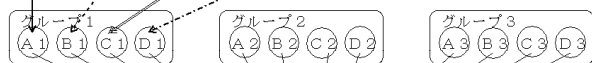
②専門家グループ

専門家グループ（課題別グループ）で同課題ごとに集まり、調べまとめる。

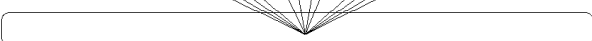


③ジグソーグループ

元のジグソーグループに戻り、各課題について発表し合い、比較検討する。



④全体での共有化



【生活科・総合的な学習の時間の特性に合わせたジグソー的学習】

→ 児童の思いや願いからスタートした学習スタイルに

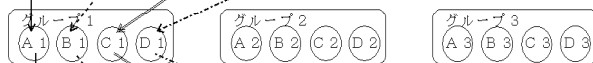
①専門家グループ

専門家グループ（課題別グループ）で同課題ごとに集まり、調べまとめる。



②ジグソーグループ

ジグソーグループを形成し、各課題について発表し合う。

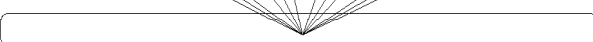


③専門家グループ

元の専門家グループ（課題別グループ）に戻り、比較検討する。



④全体での共有化



(2) 平成24年度の実践について

①「総合的な学習の時間」全体計画のさらなる改善

本校の児童の実態から「育てようとする資質や能力及び態度」をより具体化し、3つの観点をさらに細分化して各3項目ずつとした。これによりめざす力がさらに明確になり、指導しやすくなった。（別紙参照）

②学び方一覧表の作成

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」（平成22年11月 文科省）を参考に、学習過程ごとに発達段階に沿った学び方一覧表を作成し、指導の目安とした。この表をもとに各学年で実践を積み重ねることにより、課題発見・解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力等の力が6年間で発展的に育成できる。（別紙参照）

③授業実践での工夫

単元指導計画の中で、地域人材の活用がより効果的に行われるよう工夫した。そのため、地域人材の活用が進み、地域の人や専門家など校外の人の協力は必要不可欠なものとなっている。学年や学級での活用はもちろん、児童が探究を進める中で専門家（課題別）グループごとに取材が必要となった人に尋ねるケースもあり、交流する機会は多岐にわたっている。